

平成 29 年度

事業報告書

自 平成 29 年 4 月 1 日

至 平成 30 年 3 月 31 日

社会福祉法人 えのき会

京都市伏見区桃山町山ノ下 4 4 番地 8

社会福祉法人えのき会 2017年度事業報告

1. 役員の状況

【理 事】 理事6名監事2名

役職名	氏 名	任 期
理 事 長	古 川 末 子	平成29年5月25日～平成30年度会計定時評議員会終結時まで
常 務 理 事	村 上 高 久	〃
理 事	渡 辺 登 志 子	〃
理 事	高 橋 陽 子	〃
理 事	西 村 清 忠	〃
理 事	橋 本 加 津 代	〃
監 事	礒 貝 英 雄	平成29年5月25日～平成30年度会計定時評議員会終結時まで
監 事	荻 原 卓 司	〃

【評 議 員】 評議員7名

評 議 員	小 林 幸 次 郎	平成29年4月1日～平成32年度会計定時評議員会終結時まで
評 議 員	小 山 敏 枝	〃
評 議 員	清 水 千 賀 子	〃
評 議 員	岸 本 栄 嗣	〃
評 議 員	田 中 聖	〃
評 議 員	山 田 章 代	〃
評 議 員	下 山 さ え 子	〃

【評議員選任・解任委員】

選 解 委 員	早 川 京 子	平成29年3月1日～平成31年度会計に関する定時評議員会終結時まで
選 解 委 員	礒 貝 英 雄	〃
選 解 委 員	西 山 竜	〃

【第三者苦情解決委員】

苦 情 解 決	立 岩 真 也	平成 29 年 5 月 25 日～平成 30 年度会計定時評議員会終結時まで
苦 情 解 決	土 田 文 子	平成 29 年 5 月 25 日～平成 30 年度会計定時評議員会終結時まで

2. 理事会の開催状況

第 1 回理事会

開催年月日：平成 29 年 5 月 25 日（木曜日） 18 時 05～19 時 10 分

場 所：さくらの家 会議室

出席者氏名

(1) 理 事：古川末子、村上高久、渡辺登志子、高橋陽子、橋本加津代
西村清忠、(全員出席)

(2) 監 事： 礒貝英雄、荻原卓司

(3) 事務局： 西山竜

(4) 議案及び議決事項

第 1 号議案 平成 28 年度 事業報告について

第 2 号議案 平成 28 年度 収支決算報告（案）について
監事監査報告

第 3 号議案 役員選任（案）について

第 4 号議案 役員報酬基準について

第 5 号議案 定款変更（案）について 【目的変更】

(5) その他

報告事項 京都市財政援助団体監査結果

伏見税務署・過去 5 年の源泉所得税に関する調査

第 2 回理事会

開催年月日：平成 29 年 6 月 14 日（水曜日） 17 時 30 分～17 時 40 分

場 所：さくらの家 会議室

出席者氏名

(1) 理 事：古川末子、村上高久、渡辺登志子、高橋陽子、橋本加津代
西村清忠、(全員出席)

(2) 監 事： 礒貝英雄
荻原卓司

(3) 事務局：西山竜

(4) 議案及び議決事項

第1号議案 理事長、常務理事、執行役員の互選について

第3回理事会

開催年月日：平成29年10月13日（金曜日）14時30分～15時35分

場 所：さくらの家 会議室

出席者氏名：

(1) 理 事：古川末子、村上高久、渡辺登志子、高橋陽子、橋本加津代

欠席者：西村清忠、

(2) 監 事：礒貝英雄

荻原卓司

(3) 事務局：西山 竜

(4) 議案及び議決事項

第1号議案 執行役員の役割分担について

渡辺理事：生活介護事業（榎の家・さくらの家）

高橋理事：グループホーム（ハックベリー・ベル）

村上理事：居宅介護・放課後等デイサービス・短期入所事業
（めい・そらまめ・えのき）

(5) 報告事項

① 執行役員会の開催状況

② 役職の役割再編と職務分担に関するプロジェクト報告

③ 職員の状況

④ 介護・福祉サービス等第三者評価の受診

⑤ その他

第4回理事会

開催年月日：平成30年3月27日（火曜日）18時30分～19時50分

場 所：さくらの家 会議室

出席者氏名：

(1) 理 事：古川末子、村上高久、渡辺登志子、高橋陽子、橋本加津代

西村清忠、（全員出席）

(2) 監 事：礒貝英雄

荻原卓司

(3) 事務局：西山 竜

(4) 議案及び議決事項

第1号議案 2017年度補正予算について

第2号議案 2018年度事業について

- 第3号議案 2018年度予算について
- 第4号議案 管理職の選任について
- 第5号議案 執行役員の役割分担について

その他

報告事項

- ・執行役員懇談会の報告

連絡事項

- ・次回理事会の開催日について

3. 評議員会の開催状況

2017年度定時評議員会

開催年月日：平成29年6月14日 16時30分～17時15分

場 所：さくらの家 会議室

出席者氏名：

- (1) 評議員：小林幸次郎、清水千賀子、下山さえ子、小山敏枝、
山田章代、岸本栄嗣

欠席評議員：田中聖

- (2) 監 事： 磯貝英雄
荻原卓司

- (3) 質疑応答者：古川理事長

- (4) 事務局： 村上高久事業統括部長
西山竜

- (5) 議案審議

第1号議案 平成28年度収支決算報告について
監事監査報告

第2号議案 役員選任について

第3号議案 役員等報酬基準について

第4号議案 定款変更について〔目的変更〕

- (6) その他

報告事項 ・平成28年度事業報告について

・京都市財政援助団体監査結果

(伏見税務署・過去5年の源泉所得税に関する調査)

2017年度第2回評議員会

開催年月日：平成30年3月28日（水曜日） 17時～18時

場 所：さくらの家 会議室

出席者氏名：

(1) 評議員：小林幸次郎、清水千賀子、下山さえ子、小山敏枝、田中聖
山田章代、岸本栄嗣 (全員出席)

(2) 質疑応答者：古川理事長

(3) 事務局： 村上高久事業統括部長
西山竜

(4) 議案審議

第1号議案 2017年度補正予算について

第2号議案 2018年度事業について

第3号議案 2018年度予算について

その他

報告事項

・執行役員懇談会の報告

連絡事項

・次回定時評議員会の開催日について

・招集手続き省略の同意書について

4. 法人会議・職員研修報告

◇法人会議

・執行役員会（水曜会）全7回開催

(2017年5/15、7/12、9/27、11/8、12/20、2018年1/24、2/28)

理事長・執行役員理事・事業統括部長・所長

・事業運営会議（毎月） 事業統括部長・所長・主任等の事業管理者会議

・法人合同職員会議（6月、12月、3月、）

◇職員研修会

第一回 「特別講演会」西宮青葉園におけるこれまでの歩み

～そのなかで大切にされてきたこと、これからの社会福祉に期待されること～

日 時：平成29年6月4日 午後

場 所：さくらの家 2階

参加者：37名

講 師：西宮市社会福祉協議会 常務理事 清水 明彦様

第二回 法人職員階層別研修

日 時：平成29年9月10日 午前

① 内 容 「摂食研修会」

場 所：さくらの家 2階

参加者：12名（1～3年目の職員）

講 師：びわこ学園医療福祉センター草津 中谷 芽氏 言語聴覚士

- ② 内 容 「支援計画研修会」 午前
場 所：さくらの家 1階
参加者：17名（4年目以降の職員）
発 表：廣坂 宮坂 進行：森下
③ 内 容 「普通救命救急講習会」 午後
参加者：24名
講 師：京都市消防局伏見消防署醍醐分署

第三回 「メンタルヘルス研修会」

- 日 時：平成29年12月3日 午前
場 所：さくらの家 2階
参加者：35名
講 師：社会保険労務士 勝見九重氏

第四回 「権利擁護研修」

- 日 時：平成30年3月11日 午前
場 所：さくらの家 2階
参加者：36名
講 師：京都造形芸術大学准教授 岸本栄嗣氏
◇午後の部
安全運転講座 交通事故の発生状況と賠償事例
場 所：さくらの家 2階 午後
参加者：18名（公用車運転業務従事者）
講 師：保険代理店 SRM 田中努氏

◇生活介護部門研修「リハビリ研修会」

- ① リハビリテーションの基礎
日 時：平成29年8月26日 午後
場 所：榎の家北棟 1階
参加者：14名
講 師：びわこ学園医療福祉センター草津 理学療法士 泉 圭輔氏
② リハビリテーション研修 演習
日 時：平成30年2月17日 午後
場 所：榎の家北棟 1階
参加者：7名
講 師：びわこ学園医療福祉センター草津 理学療法士 泉 圭輔氏

◇法人管理職研修

内 容：役割再編に伴う役職者に対する研修会

日 時：平成 29 年 10 月 11 日 10:00～14:00

場 所：さくらの家 2 階

参加者：管理職等 8 名

講 師：有限責任監査法人「トーマツ」吉田聖氏

◇2018 年採用新任職員研修

日 時：平成 30 年 3 月 20、27、28、29 日、4 月 20 日の合計 5 日間

参加者：7 名

内 容：介護基礎研修、人事制度（キャリアパス）、総合防災訓練、
利用者の健康管理、法人の沿革と基本理念、摂食嚥下の基礎知識、
事業方針、行動規範・就業規則、車いす介助方法等

講 師：古川理事長、村上事業統括部長、田中所長、森下係長、高尾主任他

5. 法人本部報告

◇全般の運営から

えのき会の職員総数が 84 名（2018・4・1 現在）となり、組織の再構築、役職者の役割再編、職務の分担などについて、コンサルティングを導入し見直しをすることになった。有限責任監査法人「トーマツ」に依頼し、2017 年 6 月～9 月の約 4 カ月間にわたって、これまで事業統括部長が担ってきた職務の分散と移行、次世代の役職者の育成、再編、マネジメント力のある人材の育成など、アドバイザーサービスを受けた。短期～中期にわたり実施。（150 万円）

◇第三者評価受診：グループホーム「ハックベリー」

京都・介護福祉・第三者評価サービスより、「法人設立の経過からみても、さまざまな事業が横断的に運営され、利用者本位のサービスが提供されていることを高く評価できる」との総評を頂いたが、マニュアルの整備など改善点の指摘もあり、今後の課題となっている。詳細は、第三者評価等支援機構 HP
(<https://kyoto-hyoka.jp>) にアップされている。（30 万円）

◇京都府より、福祉有償運送車両購入に掛かる事業費、送迎車両購入費として 150 万の補助を受けた。（法人負担分 180 万）

◇職員採用については、ここ数年福祉関係への応募者が減少傾向にあり、応募者も新卒者より中途採用者の比率が高い傾向にある。募集方法も、ウェブサイトよりエントリーする方法が一般的であり、WEB サイトは必須となっている。求人情報ナ

ビサイトに多く掲載する機会があることが採用者のアップにつながるが、ナビサイトの掲載費用が高額なこともあって人材募集に、これまで以上の予算が必要となってきた。（250万円）

2017年度は、パート職員も合わせると10名の採用となっているが、この1年間の離職者もほぼ同数の10名となっている。定着してもらえなかった理由を分析し今後活かしていく必要がある。現在、就活をする学生たちが、企業に求める条件として有給休暇の取得や福利厚生面の充実等、ワークライフバランスを優先する傾向があることから、採用側も率先して課題の改善に向け取り組んでいくことが重要となる。

職員体制として、正職員49名、契約職員7名、登録職員20名、事務8名
計84名（2018年4月1日）

◇これから

昨年度の社会福祉法の改正により、社会福祉法人のガバナンスや財務規律の強化、透明化など、組織運営に関わるさまざまな改革が示された。中でも、社会福祉法人の事業だけでなく更なる取組「地域共生社会の実現」に向けて、その役割にも重点が置かれている。

養護学校卒業後、どこにも通所する施設がなかった頃、母親たちが重い障害のある子らのために「あったらいいな、こんな支援」（ニーズ）を形にしたことが、えのき会の原点となっている。

そんな法人として、障害のある人だけでなく、培ってきた福祉資源を活かし地域の中で多様化する課題《声のあげることができない人や、より小さな声》に寄り添い手を差し伸べていくことが、えのき会の大切な役割だといえる。

人口減少と超高齢社会という国の構造的な問題が大きく立ちはだかる今、社会保障制度（福祉、医療、年金制度）や福祉施策の在り方が、これまで来た10年より困難が予想されるが、持続可能な社会の在り方について共に考えていきたい。

【総 括】

日中活動では、グループ活動として定着化したクッキング、染物、スヌーズレンを実施し、昨年度からのテーマである「静」と「動」の活動に焦点を当て、一日の過ごし方にメリハリのある活動を心がけ展開した。また、グループの活動だけでなく、ストレッチやパソコン、織物など個々のニーズも反映し、グループ活動、個別活動の二つの柱を軸に活動を構成した。また、節分、運動会、クリスマス会など季節感を重視したレクリエーションも企画し、一年の流れを楽しみながら感じられるよう取り組んだ。

昨年度事業報告にて記した屋外活動への展望であるが、半日の外出を企画し、近隣の公園への花見、散歩などを行ったが、職員配置の変更、現場職員の状況を考慮し、昨年度にくらべ大幅に屋外での活動の減少がみられた。今後は、状況を考慮しながらではあるが屋外での活動の充実を目指したい。

土曜日の生活介護であるが、開所から約2年を経て、過ごしの内容も定着化し、ゆったりと過ごすことができている。

昨年度からの課題であったデイルームが手狭になってきている問題であるが、エアレックスマットの追加などの対策を取ってはいたものの、根本的な解決、環境整備の着手にはつながらなかった。一方で、トイレ内の環境整備、衛生管理などは看護師主体のもと介護職員に意識付けを行い一定の成果が上げられた。環境整備に関しては、次年度への課題として継続して取り組んでいきたい。

健康管理面では、例年どおり定期通院やリハビリに同行し、利用者の変化に対応した日中の過ごしができるよう心がけた。今後も、関係機関とは密に連携し継続して体調把握につとめていく。

人材育成に関しては、新任職員、中途採用職員に対して定期的なヒアリングを実施し、意見、思いのくみ上げを重視した。職員の勤務態度にも変化が如実に見られ効果を確信できたが、現場状況などによりヒアリングの時間、機会が減少し、年間を通しての評価としては成功と言い難い状況であった。指導的職員、もしくは先輩職員との対話を通して成長を促していくことをぶれない軸とし、より効果的に育成が行えるような仕組みを練り上げていく必要がある。また、育成担当職員だけが育成を行うのではなく、各自がチームのなかでの役割、担うべき機能を自覚し、チームとして職員の成長を手助けするという視点と自覚を持てるよう取り組む必要がある。

1. 職員体制

所長 1名 サービス管理責任者 1名 看護師常勤 1名・非常勤 4名

生活支援員一日平均 10.8名以上（正規 41名、非常勤 3名）（看護師含むと 12.34人）
（基準上の必要職員数 8.7名）

事務員 1名(兼務) 運転手 1名(兼務) 栄養士 1名 調理員 1名（非常勤）

2. 利用状況

登録名	39名（3月末）	男性	18名	女性	21名
-----	----------	----	-----	----	-----

年度途中退所者	1名	新規利用登録	3名
---------	----	--------	----

年間開所日数	292日	年間延べ利用者数	4,301名（昨年 4,231 一昨年 3,792）
--------	------	----------	----------------------------

一日平均利用者数 14.7 名（昨年 14.8 名　一昨年 15.6 名）

3. 主な活動

1) 外出先

- ・ 桃山城公園　4 月（半日）　　　　　・ 伏見港公園　5 月（半日）
- ・ 醍醐図書館　6 月（半日）　　　　・ 事業所周辺散歩　適宜

2) 主なレクリエーション活動

- ・ 染物・園芸・紙すき・音楽療法・室内ゲーム・誕生会・アルミ缶リサイクル・クッキング等

3) 避難訓練　11 月参加者　38 名（内、職員　22 名）

3 月参加者　41 名（内、職員　23 名）

4. アクシデント

- ・ 与薬関連　2 件（与薬時間遅れ 1 件　こぼし 1 件）
- ・ 怪我 3 件（他傷 2 件　利用者からの受傷 1 件）
- ・ 紛失・物品破損・私物取扱・物品管理 13 件
（私物忘れ 6 件　管理 2 件　私物間違い 3 件　私物破損 2 件）
- ・ 介護 15 件
- ・ 送迎 5 件（時間伝達間違い 3 件　迎え忘れ 1 件　ハッチバックにあたる 1 件）
- ・ 誤嚥・異食 2 件
- ・ 連絡調整 2 件

以上 42 件

＊昨年度に引き続き物品管理において、共用物の取扱ルールを明文化できていないため、杜撰になってしまっている。破損のケースもあり、注意喚起を怠らず環境整備にあたっていく。

＊私物の取扱いについて、預かっているものであるという認識を深め、紛失・破損につながらないようにしていく。

生活介護事業　さくらの家　事業報告

【総　括】

日中活動では、作業の活動を縮小し、レクリエーションや、気候の良い日には外に出る機会を増やした。作業では、アルミ缶・紙すき・陶芸や即売会実施月には即売会の作品を作るように実施した。一方、地域交流の機会を増やす事を目標とし、アルミ缶の回収を継続しながら、地域の方にも協力してもらい、参加できるイベントは参加する事で「さくらの家」を知ってもらう機会を作った。また、月一回老人ホームで開催されている藤城カフェ・団地の集会場にて不定期で開催されている演奏会などに参加させていただき、地域の方との交流する機会を設けられた。また、ボランティアによる朗読会とギターライブをそれぞれ月 1 回開催できるようになり、利用者にとっては楽しい時間となってきた。

健康管理面においては、常に看護師がいる中でバイタルの数値や、発作の様子など報告し連携できるように努めた。看護師の指導のもと、医療的ケアに従事できる職員を増やし、業務が円滑に回るように職員、看護師との連携の充実も図ってきた。また、年々ニーズが多い

入浴では、回数を増やすなども検討していき、入浴の業務を担える職員と活動が担える職員と分けてチームを作れるように取り組んでいき始めている。今後も継続し、円滑に回るようにチームとして作っていききたい。また、ニーズに対応できるように職員とご家族との関係を築いていきたい。

職員育成に関しては、日勤職員が増え、利用者の引継ぎを順次におこない、円滑に業務、安全に過ごせる生活介護を目指していく。そして、利用者のご家族の高齢化が進み、利用者の今後の生活をどのように描いていくのか、将来への視点を持って、その人らしい環境を創って取り組んでいく必要性を感じている。

新人育成に関しては、計画を一緒に立てる事で本人の希望を確認し、より仕事内容の理解と本人の意識の向上に繋がるように努めた。

1. 職員体制

所長 1名 サービス管理責任者 1名 看護師非常勤 3名

生活支援員一日 7名以上（正規 28名 非常勤 3名）（看護師含むと 7.95人）

（基準上の必要職員数 7.3名；看護師含む）

事務員 1名（兼務） 運転手 1名（兼務） 栄養士 1名

2. 利用状況 登録 30名（3月末） 男性 10名 女性 20名

新規利用登録 0名 退所 1名（10月末）

年間開所日数 244日 年間延べ利用者数 2,944名（昨年 2,990 一昨年 2,642名）

一日平均利用者数 12.1名（昨年 12.3名、一昨年 10.9名）

3. 主な活動

1) 外出先

- ・洛南イオン（4、5、6、7、9、10、12、1月の11日イエローキャンペーン活動参加）
- ・醍醐図書館（毎月2回）
- ・藤城カフェ（毎月1回、木曜日）
- ・4月 桜ドライブ
- ・5月、6月 京都市鉄道博物館
- ・7月 琵琶湖博物館
- ・9月 京都市動物園
- ・11月 紅葉ドライブ
- ・12月 京親協コンサート

2) 主なレクリエーション活動

- ・紙すき・音楽療法・陶芸・アルミ缶リサイクル・クッキング等・作品展示即売会・戸外活動・創作

3) 避難訓練 10月参加者 25名（内、職員 15名）

3月参加者 30名（内、職員 18名）

4. アクシデント

- ・怪我 4件（転倒 0件・他傷 3件・怪我 1件）
- ・送迎関係 2件（送迎忘れ 1件・連絡ミス 1件）
- ・私物取扱い関連 5件（私物荷物忘れ 1件・利用者同士の間違い 1件・共有物持ち帰り 1件・私物の食材の取り扱い 2件など）
- ・紛失、物品取扱い 2件（破損 2件）

- ・与薬関連 1 件（塗布薬間違え 1 件）
- ・その他 2 件（誤食 1 件・トイレ介助中カーテンを全開にしてしまう 1 件）

以上 16 件

*アクシデントの件数は、2016 年度に比べて減少している。その中でも、利用者同士の他傷の件数が多い。アクシデントを起こさないように環境を変えての対応を行なっている。

*利用者のトロミ剤や水分時に使用する飲み物の破棄が新たにアクシデントとして発生している。引き続き利用者の物品の取り扱いには十分な管理をしていきたい。

共通事項.

1. 主な派遣研修・会議等

- ・社会福祉援助入門講座（1 名）
- ・ケースカンファレンス研修（1 名）
- ・利用者の声を聴く（2 名）
- ・福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程（中堅職員コース）（1 名）
福祉職場インターンシップ事前研修（1 名）
- ・福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程（初任者コース）（1 名）
- ・福祉職員人権研修～新任・中堅職員編～（2 名）
- ・ケース記録の基礎と展開（1 名）
- ・職員会議（1 回／月）

2. 利用時間

◇榎の家

月曜日～土曜日（年末年始・お盆・祝日を除く 9 時 40 分～15 時 40 分）

◇さくらの家

月曜日～金曜日（年末年始・お盆・祝日を除く 9 時 40 分～15 時 40 分）

3. 一日の予定

送迎→到着(9:40)→朝の会→午前の活動→昼食・休憩→午後の活動→送迎(15:40)→各家庭

4. 福祉体験実習・施設見学等の受入

呉竹総合支援学校（高等部 2 年生）施設見学会	6 月 9 日 4 名
呉竹総合支援学校施設見学会	7 月 31 日 10 名
滋賀県栗東民生委員施設見学会	9 月 25 日 19 名
呉竹総合支援学校福祉体験実習	9 月 25～27 日 1 名
呉竹総合支援学校施設見学会（高等部 2 年）	11 月 17 日 2 名
中学生（宇治市）職場・福祉体験学習受入	11 月 9～10 日 3 名
池坊短期大学幼児保育学科保育実習	3 月 5～16 日 11 日間 2 名

5. その他

アルミ缶リサイクル活動の売上金については、利用者全員に 8 月 T シャツ、12 月タオル等を配布した。

共同生活介護事業 ハックベリー 事業報告

【総括】

第三者評価を受ける機会をいただき、事業内容を見直すことができた。個々のニーズを大切にし、寄り添う支援を日々の業務をおこなってはいるが、標準となるマニュアルに関しては不十分であることを指摘された。基本とされる芯の部分の上にご利用者のニーズが乗り、より良い支援へと繋がっていくことを意識し、順次整備していく。

健康管理面では大きく体調を崩される利用者もおらず、安定した1年であった。医療機関には通院同行をおこない、情報を得るなど常に連携を心がけている。様々な要因で体調変化がみられている。今後も主治医との情報共有を図り、利用者個々の体調維持に努めていく。

余暇支援では月1回の全体外出を継続することができている。職員は楽しみを持って企画、実行をしているが、実際どの程度利用者の満足度に繋がっているかは把握できていない状況である。今後は外出の際の利用者満足度を把握し、次の外出へつなげていく方法を模索していく。

支援体制面では、年度途中に職員が産休・育休に入り、サービス管理責任者も交替するなどこれまで中心となっていた職員が抜けることになり、利用者の中で戸惑いもみられたが、混乱が長く続くようなことはみられなかった。日頃の支援の中で、関係性をしっかりと築き上げていることより、少しの変化でも揺るがない強さがあるからだと感じている。3年目以下の若い職員が中心となり業務にあたっており、今後は個々の業務整理をおこない、やるべき目標設定を明確にすることで、さらなるステップアップを図れる育成を実施する。

年間の取り組みのなかで夜勤従事者の業務軽減ができつつある。その他の業務に関しても、再度マニュアルを見直し、業務負担の軽減につなげていきたい。

1. 職員体制

管理者 1名	サービス管理責任者 1名	生活支援員 9名(常勤 9名)
世話人 6名(常勤 1名、非常勤 5名)		ヘルパー派遣 27名

2. 利用状況

入居定員 6名 入居者 6名
延べ利用人数 2,113人(稼働率 96%) 営業日 365日

3. 主な活動

1) 日中支援

- ・通所先との連絡調整、余暇支援調整、買い物外出支援
- ・往診医との連絡調整、専門医の通院調整

2) 余暇支援 毎月1回全員での外出

東大寺、インスタントラーメン発明記念館、イルミネーションツアー 等

3) 避難訓練(短期入所事業との合同訓練)

10月参加者 11名(内、職員 7名)(夜間想定訓練)

3月参加者 13名(内、職員 8名)(朝想定訓練)

4. 主な派遣研修・会議等

- ・派遣研修 5月 西宮社会福祉協議会 青葉園施設見学(1名)
7月 福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程(初任者コース)(1名)
8月 アセスメント・プランニング(1名)
2月 アサーション (2名)
- ・ハックベリー職員会議 (年12回)

5. アクシデント

- ・与薬関連 3件 (処方ミス1件、排便コントロール関係2件)
- ・怪我、10件 (自傷1件、髭剃り時に出血1件 他傷3件 転倒4件 圧迫痕1件)
- ・物品破損・紛失 3件 (紛失2件、破損1件)
- ・物品忘れ 1件 ・見守り不備1件
- ・物品管理等5件(備品1件、金銭関係1件、個人所有物間違い2件、配膳ミス1件)

合計 23件

*排便コントロール関係では個人の連絡帳に排泄日を記載したカレンダーを入れ、他の事業所間でも次の処置が明確になるように工夫した。

*怪我が多く見られた件では、発作等で転倒につながる利用者に関しては身の回りの安全確保とヘッドギアの装着を促している。他傷に関しては、感情の高ぶりもあり、一人では対応できないケースもあるため、チームで取り組むように対応をする。

共同生活介護事業 ベル 事業報告

【総 括】

今年度はベル開所後初めての試みとして愛媛県道後温泉への旅行を実施。事前からの綿密な計画を立て、大きな事故や怪我なども無く無事に終える事ができた。この旅行を通じて、入居者様・職員それぞれの理解と絆が深まったと感じると同時に、職員としても計画の立案から実施までを遂行する事による自信の獲得にも繋がったと感じている。

健康管理面として、9月に服薬の変更の結果、状態に変化が生じ入院対応になる、これまで見られていなかった喘息発作が出る、その他日常的に血圧が高い傾向が見られる等、入居者様の健康面に不安の多い1年であった。加齢に伴う身体状況の変化という意識を、今一度強く意識して日々の健康管理に努めていかなければならない。

アクシデントの件数としては減少傾向であるが、発作対応時の頓服薬の使用に際して情報の誤認による誤薬というアクシデントがあった。1つ間違えれば重大な事故に繋がりがかねないアクシデントであり、介助者の判断の誤りや情報の正しい把握、情報の共有の不行き届き、ヒューマンエラー、システムエラーがもたらすアクシデントという事に対して、より意識を持って日々取り組んで行かなければならない。

余暇支援としては、入居者全体での合同外出を継続、行事として定着するとともに、今年度はご家族様もお招きしての忘年会を企画した。普段職員がどのようにご子息様と関わらせて頂いているか、実際に見て頂ける機会ともなり、今後も折を見て企画したいと思える内容となった。今年度も様々な職員間の連携の強化や入居者との関係作りの機会として成果があると同時に、余暇の充実と心身のリフレッシュにも繋げる事ができた。

職員体制としては、若年層職員の育成について課題が多く、またこれまで関係が取れて

いた入居者様と職員との間で、関係性が取れなくなってしまうケースが生じる等、状況の把握と改善に取り組んではいるが今しばらくの時間を要する状況である。

次年度に向けての取り組みとしては、まず入居者様の健康管理においての情報の周知と共有の徹底、対応マニュアルに沿った対応を確実に行えるよう努める。また、事業所の時期目標として掲げている「入居者様・職員ともに笑顔溢れるホーム」の追求、またその実現のために職員はどうあるべきかを職員1人1人が受け止め考え実行していけるよう進めて行くとともに、若年層職員の質の底上げ及び事業所内の中核・リーダー職を担える人材の育成を進めて行く。

1. 職員体制

管理者 1名	サービス管理責任者 1名	生活支援員 8名(常勤 8名)
世話人 9名(常勤 4名、非常勤 5名)		ヘルパー派遣 24名

2. 利用状況 入居定員 6名 入居者 6名

延べ利用人数	2,059人 (稼働率 95%)	営業日 363日
--------	------------------	----------

3. 主な活動

1) 日中支援

- ・通所先との連絡調整、余暇支援調整、買い物外出支援
- ・往診医との連絡調整

2) 余暇支援 神戸どうぶつ王国・スプリングス日吉・海遊館・エキスポシティ等

3) 避難訓練 10月参加者 11名 (内、職員 5名)

3月参加者 11名 (内、職員 5名) (夜間想定訓練)

4. 主な派遣研修・会議等

- ・5月 対人援助のためのコーチング (1名)
- ・6月 喀痰吸引第3号研修 (1名)
- ・7月 強度行動障害支援者養成研修 (1名)
- ・9月 福祉職員人権研修 (中堅職員編) (1名)
- 問題解決のための思考法 (1名)
- ・12月 キャリアパス対応初任者研修
- ・避難訓練 (10月参加者 11名、3月参加者 11名)
- ・ベル職員会議 (年12回)

5. アクシデント

- ・与薬関連 6件 (落下薬 6件)
- ・転倒、怪我 11件 (傷 7件、転倒 4件)
- ・物品破損、紛失 9件 (備品、私物の破損 8件、紛失 1件)
- ・失念 5件 ・介護 9件 計 40件

※誤薬に関して、看護師及び管理者と連携したマニュアルを作成し、手順に沿った対応を取る体制を構築した。またヒューマンエラーを防ぐため、管理者の指示の元でダブルチェックを行う体制を構築した。

※情報の共有に際して、速やかな開示及び確認の徹底に努めており、情報の遅れや確認漏れを防ぐ体制を施行している。

短期入所事業 サポートセンターえのき 事業報告

【総括】

利用登録者は27名で、昨年度より2名増えている。利用総数610人のうち、区分6が約半数をしめ、区分5が30%、区分4と3がそれぞれ11%となっている。今期も昨年度に引き続きグループホームへの入居が決まり、夏以降利用されなくなった方がおられる一方、新たに利用をはじめた方もおられた。総数としては、今後とも支援体制の関係上、現状維持することになる。なお、ご家族の入院等による緊急依頼が数件あったが、関連する事業所にも協力を要請し、何らかの支援対応を心がけることができた。

1. 職員体制

管理者 1名 生活支援員 15名(常勤兼務)

2. 利用状況 利用定員4名

延べ利用人数 610人 延べ利用回数 292回 一日平均 1.7人 実人員 27人
(昨年度延べ利用人数 587人 延べ利用回数 276回 一日平均 1.6人 実人員 25人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
利用人数	50	54	52	57	59	50	322
利用回数	24	23	27	25	28	24	151
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下半期計
利用人数	53	53	51	53	39	39	288
利用回数	26	26	25	26	19	19	141

3. アクシデント

- ・食事中、ビデオ鑑賞の影響で嘔吐される。
- ・薬が変更追加になっていたが、確認不足で従来の与薬になる。 計2件
重大なアクシデントはなく、利用期間中の体調異変もなかった。

特定相談支援護事業 えのき 事業報告

1. 職員体制

管理者 1名 相談支援専門員 1名 (兼務)

2. 利用状況(年間)

実利用人数 34人 (内、2人契約解除)

- ・日常生活全般に関する相談 32件
- ・地域の障害福祉サービス事業所等の情報提供 6件
- ・指定計画相談 32件 (内、計画変更 4件含む)
- ・モニタリング 15件

3. 主な派遣研修・会議等

- ・法人職員研修、法人職員会議
- ・計画相談策定のためのカンファレンス開催
- ・今後の生活に向けたカンファレンス開催

居宅支援事業 サポートセンターめい 事業報告

【総 括】

支援状況は、居宅介護・重度訪問介護・移動支援が前年比を下回る結果となった。居宅介護では在宅からグループホームや入所に移行されたケースや、ショートステイの日数を増やしたケースにより在宅支援が減少した事が理由に挙がる。移動支援から行動援護に移行するケースは一旦落ち着いたが、職員の離職休職に伴うヘルパー不足により、行動援護以外は軒並み支援時間数が減少する結果となった。本来、減収に至るところであるが、処遇改善費が加算されているため結果的には、昨年度並みになっている。

関係機関との連携面では、相談支援での担当者会議が開催されるケースが多くなり、関係事業所で検討する機会を作り、情報交換や課題を確認・見直す事によって、利用者のサービス向上に繋がっている。

事業所内では年度初めに業務マニュアルの作成改定計画や業務改善等の事業年間計画を明確にし、職員間で共有した事によって、計画的に目標を持って業務実施に繋がられた。また行動規範各章の担当を明確にする事によって事前に準備を実施するなど、取り組む意識の向上に繋がった。

昨年度に引き続き行動援護従事する為の強度行動障害従事者養成研修も、計画通り9名実践研修まで修了し、従事できる体制が整ってきている。行動援護研修や利用者の障害特性の勉強会を居宅会議の一部に取り入れ、シリーズで行う事によって職員の理解を深めると共に、知識や対応スキルの向上に繋がられた。

1. 職員体制

管理者1名（兼務）サービス提供責任者2名 職員35名
契約職員3名 登録ヘルパー8名 事務員2名

2. 事業内容

居宅介護：重度訪問介護：行動援護：移動支援

3. 利用者概要 登録者93名 うち児童3名

（2018年3月末現在）

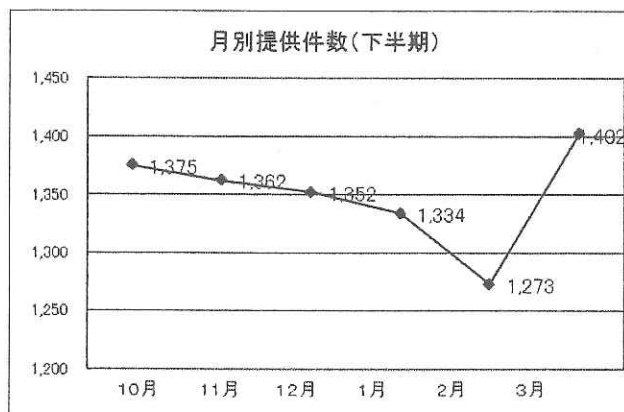
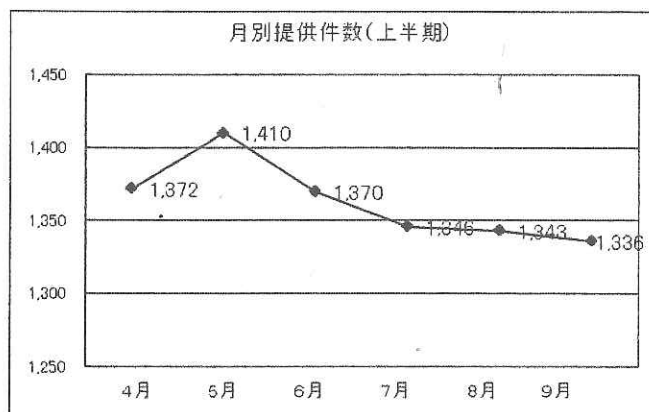
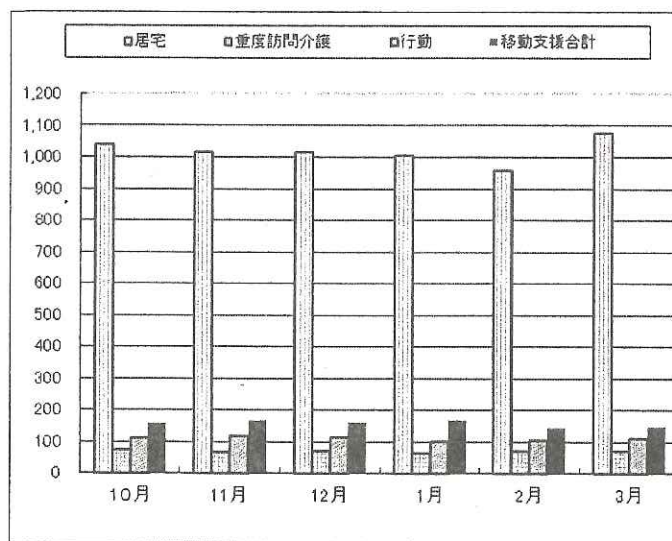
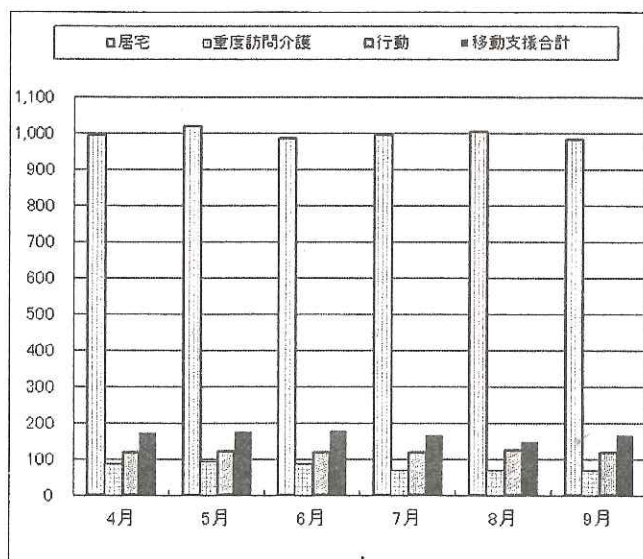
性別/年齢	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～	平均年齢
男性	5	15	21	9	1	1	32.9 歳
女性	2	13	12	9	4	1	34.9 歳
合計	7	28	33	18	5	2	33.8 歳

4. 居宅支援状況（時間数）

上半期		4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
居宅介護		1,239.0	1,255.0	1,235.9	1,246.6	1,222.3	1,212.5	7,411.3
重度訪問介護		298.5	361.3	319.0	246.0	279.5	269.5	1,773.8
行動援護		324.3	359.8	324.8	319.7	319.3	333.5	1,981.4
移動支援	(身体介護伴う)	451.8	456.1	510.2	501.5	442.4	486.6	2,848.6
	(身体介護伴わない)	82.6	74.0	78.5	57.2	73.7	77.3	443.3
移動支援 合計		534.4	530.1	588.7	558.7	516.1	563.9	3,291.9
総合計		2,396.2	2,506.2	2,468.4	2,371.0	2,337.2	2,379.4	14,458.4

下半期		10月	11月	12月	1月	2月	3月	下半期計	年度計
居宅介護		1,261.5	1,221.1	1,210.8	1,174.4	1,126.9	1,184.1	7,178.8	14,590.1
重度訪問介護		285.5	267.0	266.0	257.0	265.5	267.0	1,608.0	3,381.8
行動援護		295.6	328.2	320.2	295.1	281.9	324.1	1,845.1	3,826.5
移動支援	(身体介護伴う)	420.5	474.4	373.7	418.3	394.3	467.8	2,549.0	5,397.6
	(身体介護伴わない)	72.5	69.0	94.5	90.8	88.0	56.0	470.8	914.1
移動支援 合計		493.0	543.4	468.2	509.1	482.3	523.8	3,019.8	6,311.7
総合計		2,335.6	2,359.7	2,265.2	2,235.6	2,156.6	2,299.0	13,651.7	28,110.1

	居宅介護	重度訪問	行動援護	移動支援	総合計	
2016 年(年間)	14,620.9	4,196.0	3,582.4	7,509.4	29,908.7	
2017 年(年間)	14,590.1	3,381.8	3,826.5	5,426.6	28,110.1	



【障害程度区分による利用状況一覧】

	居宅介護					
	児童	区分3	区分4	区分5	区分6	
時間数	0.00	1,292.50	2,282.40	383.50	10,631.70	
件数	0	1,052	1,628	506	8,891	
平均支援時間	0.00	1.23	1.40	0.76	1.20	
	重度訪問介護			行動援護		
	区分4	区分5	区分6	区分4	区分5	区分6
時間数			3,381.80	0.00	273.00	2,892.15
件数			871	0	46	1145
平均支援時間			3.88	0.00	5.93	2.53

5. アクシデント・インシデント

アクシデント

破損 6 件 忘却 2 件 紛失 5 件 介護 6 件 金銭 1 件 遅刻 1 件 服薬 3 件 忘れ物 2 件
転倒 4 件 怪我 1 件 調整 2 件 事故 1 件

合計 34 件

苦情 3 件

今年度は支援業務間でのバイク移動中に接触事故を起こし、相手方に負傷を伴う重大なアクシデントが起こった。事故が起こった際、管理者への報告がなされなかった事や移動中でも業務として認識できていない事がこの事故を通じて明白になった。改めてリスク管理していく必要性を確認させられた。

その他のアクシデントとしては、昨年度よりアクシデント報告件数は減少したが、今年度は物品破損や紛失などのアクシデントが多い結果となった。介助中での介助の方法や確認不足、不注意により破損紛失に繋がっているのも、物品の扱い方や介助を行う上での基本的事項を再確認し担当職員と見直す機会を作りリスク回避に繋げていく事が必要になる。

アクシデント事後の対応は、サービス提供責任者が状況確認を実施し、必要に応じてご利用者の自宅訪問や職員のフォローアップをおこない、リスク管理に努めた。

苦情に関しては、支援中での利用者や支援に対してのヘルパーの心構えや意識の持ち方など改めなければいけない部分がうきぼりになった。会議や面談の回数を重ね意識改善をおこない、法人理念や行動規範を浸透する事を迅速に進めて、サービス向上や職員の意識改善、リスク管理に努めていきたい。

6. 主な派遣研修・会議等

○派遣研修

キャリアパス対応中堅職員コース

ケースカンファレンス

ストレスマネジメント

京都府サービス管理責任者等研修

強度行動障害支援者養成研修（実践研修）

キャリアパス対応チームリーダーコース

リスクマネジメント研修

京都府相談支援従事者初任者研修（3日コース）

強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）

7. レスパイト事業

1. 職員体制

○管理者 1名

○職員 53名（正職員 38名、契約 5名、登録ヘルパー 10名）

○事務員 2名

2. 事業内容

○タイムケア

○送迎

○入浴

○施設利用

3. 利用者概要（男性 29名 女性 23名）

※登録者（2018年3月末現在）

性別/年齢	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～	平均年齢
男性	2	7	14	5	0	1	35.4歳
女性	0	5	7	8	3	0	38.2歳

4. 利用状況

利用内訳

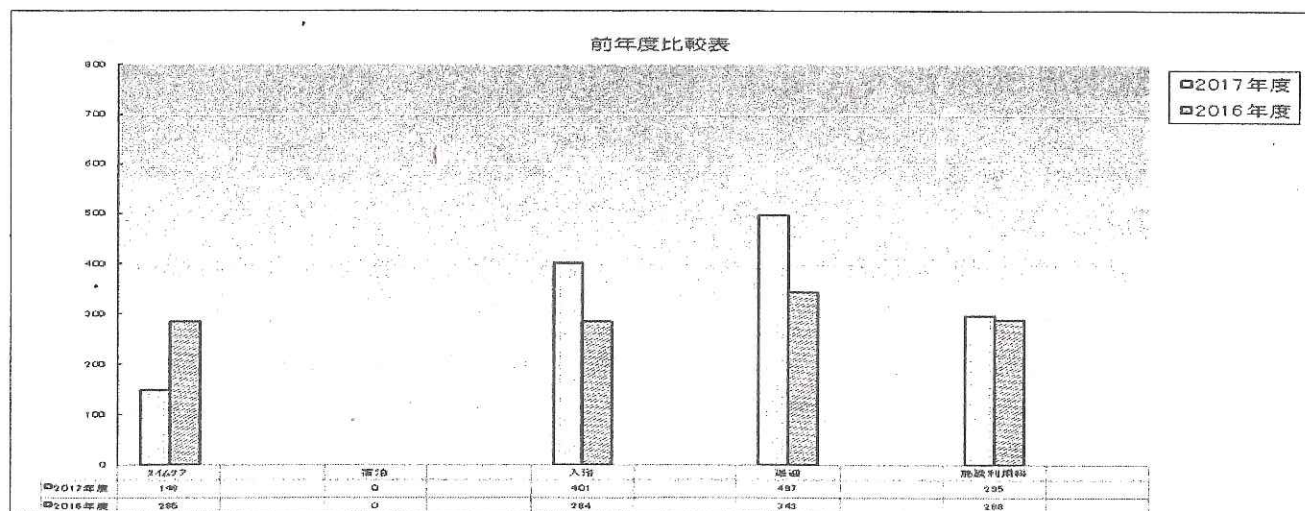
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
タイムケア	12	16	15	11	10	14	14	11	12	13	9	11	148
宿泊	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
入浴	21	25	36	31	29	36	39	43	31	36	34	40	401
送迎	42	45	25	45	39	38	45	46	51	48	37	36	497
利用料	19	28	20	29	22	33	25	28	19	27	21	24	295
給食	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

☆自宅入浴が難しい方の入浴場として、また学校・職場・ショートステイ先への送迎等、主に障害者自立支援法では賅えないニーズに対してご利用頂いています。

☆冠婚葬祭・家族の入院・本人又は介護者のリフレッシュ時などにご利用頂いています。

年間件数

	タイムケア	宿泊	入浴	送迎	施設利用料
2016年度	285	0	284	343	288
2017年度	148	0	401	497	295



放課後等デイサービス そらまめ 事業報告

【総 括】

開所から2年が経ち、年度初めには小学1年生2名を新たに迎え9人の利用者でスタートとなった。受け入れの際に事前に保育所・療育事業に訪問を行い、受け入れ後もST・PTに來所していただき生活の中での注意事項や夏休みなどの長期休みで取り組んでいきたいことなどを確認した。秋ごろからは次年度の新規利用の見学・相談が増え、12月には4月からの利用の可否をお伝えし、1月からは受け入れに向けての準備となった。前年度の状況から受け入れ準備を早めに行うことで、関係機関への見学期間を多くとることができ、児童発達支援管理責任者と他の職員の2名体制で見学に伺うことができた。

1年目に慎重に介助方法の確認や関係づくりをおこない職員も利用者もお互いに慣れることができたので、2年目では多くはないが散歩や高野スポーツセンター、ショッピングモールへの外出を意図的に取り入れることができ、自分でおやつや昼食を選んだり、体を使ってダイナミックに遊んだりすることができた。また、学校やリハビリでの取り組みを確認しながらそらまめでの生活面での課題に継続的に取り組む中で、少しずつできることが増えたり、苦手なことに一緒に取り組む姿がみられるようになったり、成長がみられる場面が多々あった。放課後ということで、課題に積極的に取り組む時間ではないが、來所時間の中で遊びを通して日々取り組むことで大きな成長があり、またそれが利用者自身・職員の自信にもつながってきている。

利用者の体調については、成長が著しい時期ということもあり、発作の様子が変わってきたり、発作対応について検討段階であるなど変化が大きかった。入院や体調を考慮しての休止もあった。そのため状況をその都度確認し、ご家族や学校・主治医と相談して対応をおこなった。また性に関する勉強会も外部研修を含めおこなった。今後も小さな変化に注意していき、成長に合わせて介助方法を含め対応を検討していく。

職員体制は、専従職員2名を中心に兼務で関わる職員が多かった。利用者の來所時間も短いので単発的な支援とならないよう毎日のミーティングでの振り返りや当日の現場での各職員の目標・全体での目標などを確認するようにした。

次年度に向けて、安定した経営にむけて現在の登録利用者からの來所日増加の希望・新規利用希望などを、段階的に受け入れるとともに、利用者の受け入れが可能な場所・施設を検討していく。

1. 職員体制

所長 1名 児童発達管理責任者 1名 保育士(常勤1名 非常勤1名)
児童指導員(非常勤1名) 指導員(非常勤2名)

2. 利用状況

定員 10 名 登録 11 名 (3 月末) 男性 5 名 女性 6 名
年間開所日数 245 日 年間延べ利用者数 614 名(昨年度 466 名)
一日平均利用者数 2.5(昨年度 1.9 名)

3. 利用時間

平日 月曜～金曜 学校終了時から 17 時 30 分まで
長期休暇中 月曜～金曜 9 時 30 分から 17 時 30 分まで

4. 対象者

北区・上京区・左京区・中京区・下京区

5. 主な活動

1) 外出先

イオンモール五条、北大路ビブレ、カナート洛北、御所、動物園、
高野障害者スポーツセンター

2) 主なレクリエーション活動

音の風

- 3) 避難訓練 2 月実施：参加者 6 名(うち利用者 4 名)
3 月実施：参加者 9 名(うち利用者 2 名)

6. アクシデント

- ・介護 3 件
- ・転倒、怪我 3 件
- ・破損 3 件
- ・車両関係 5 件
- ・忘れ物 2 件
- 以上 16 件

※車両関係のアクシデント(シートベルト忘れ・車両の接触)が多発。怪我に至っていないが大事故の可能性があるものなので、アクシデントの要因について分析し、人的要因・環境要因など多方面からの改善を図る。

※障害特性を理解した声掛け・介助が不足していたためのアクシデントが発生している。利用者の理解を深めると共に、その日の体調や状態・成長に合わせた注意点を継続して確認していく必要がある。